

PROGRESS REPORT

Vol. 3 – 2026.5.28



ジャングリア沖縄、1周年へ向けて。

これまで積み重ねてきた
ひとつひとつの「PROGRESS（進歩）」は、いま確かな変化の兆しとなり、
地域の皆様やゲストへ少しずつ、着実に伝わり始めています。

私たちは、まだまだ完璧とは言えません。
試行錯誤の連続であり、至らない点もたくさんあります。
それでも、この歩みを温かく見守り「頑張れ」と背中を押し続けてくださる
皆様の応援こそが、何よりの支えです。

あふれんばかりの感謝を胸に。
1周年に向かって、さらに地域に愛されるパークへと
歩みを進める私たちの「現在地」をご報告します。

より良い体験をお届けするために。

3,000枚のメッセージに寄せて

緑豊かな葉っぱに綴られた、3,000枚の「本音」。

県内各地の出張イベントで寄せられた手書きのメッセージには、今の私たちへのご意見やご要望、叱咤激励と共に、

「色々大変だと思うけれど、なんとか頑張っ！」

「沖縄のために絶対に成功させて！」という

背中を強く押してくださる切実な応援の言葉が溢れていました。

この取り組みは一度きりのものではなく、

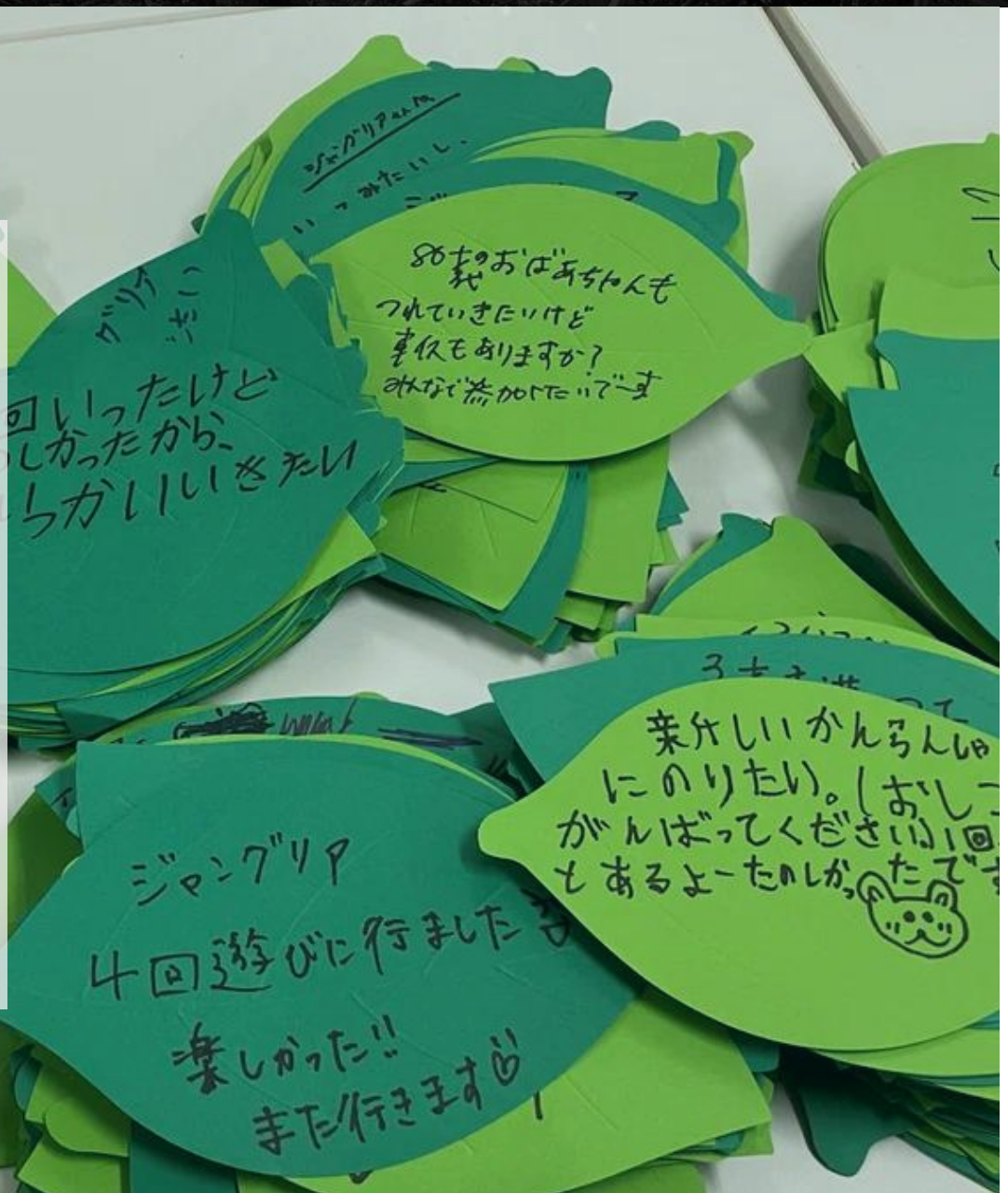
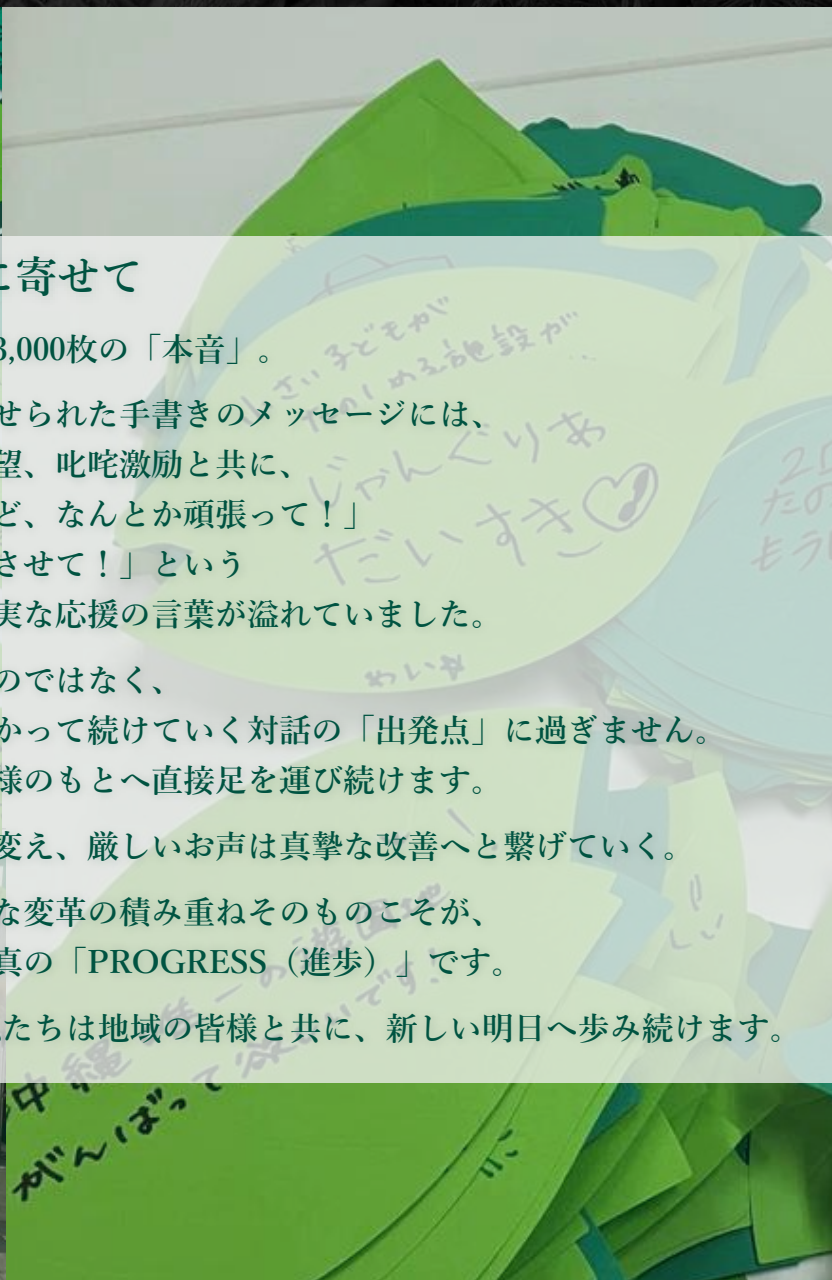
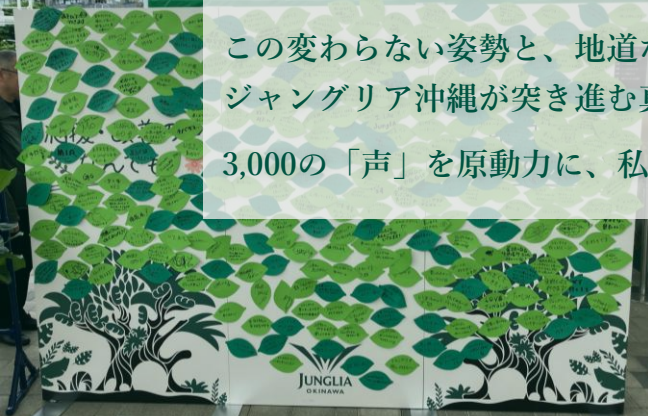
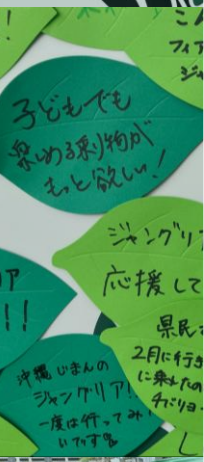
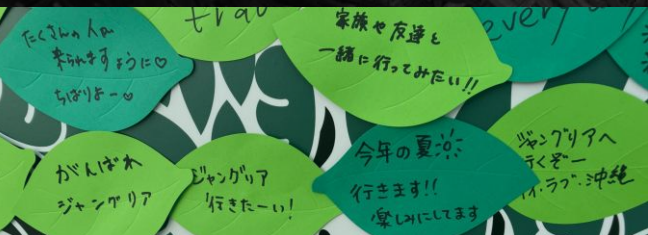
私たちがこれからも未来へ向かって続けていく対話の「出発点」に過ぎません。

今後もパークを飛び出し、皆様のもとへ直接足を運び続けます。

寄せられた応援を確かな力に変え、厳しいお声は真摯な改善へと繋げていく。

この変わらない姿勢と、地道な変革の積み重ねそのものこそが、ジャングリア沖縄が突き進む真の「PROGRESS（進歩）」です。

3,000の「声」を原動力に、私たちは地域の皆様と共に、新しい明日へ歩み続けます。



より良い体験をお届けするために。

ジャングリア沖縄では、開業以来ゲストの声を起
点に、快適なパーク体験に向けた日々の改善を地道
に積み重ねてまいりました。開業期と同規模の多くの
ゲストをお迎えしながらも、大きな課題であった
待ち時間の大幅な解消を達成。オペレーションの劇
的な進化により、快適な環境が整いつつあります。

さらに新たに大型ライドアトラクション「やんば
るトルネード」を導入。一度に多くの方が楽しめる
満足度の高い体験を提供し、全体の運営効率をより
高めています。さらなる快適な体験を目指す、私た
ちの終わりのない改善の取り組みをご紹介します。

繁忙シーズンでも、快適な滞在へ。 年末年始に実を結んだ地道な改善の成果

開業以来、私たちが真摯に向き合い、日々試行錯誤を繰り返しながら積み重ねてきたのが、アトラクションの待ち時間解消に向けた「運営改善」の歩みです。その半年間のアプローチが、初の年末年始という繁忙期においても大きな前進につながりました。

年末年始期間中は、開業期(2025年7~8月)に匹敵する1日あたりの上限5000名前後のゲストをお迎えし、1月2日には過去最高の来場者数を記録するほどの大変な賑わいとなりました。しかし、それほどの混雑であったにもかかわらず、開業期には200~300分もの長い待ち時間であった「ダイナソー サファリ」の待ち時間を約60~70分へと大幅に短縮。他のアトラクションでも同様に短縮を達成しました。

この劇的な待ち時間の短縮を支えたのは、主に2つの理由です。1つは、スタッフの習熟やオペレーション方法のブラッシュアップによる、純粋な「運営能力の向上」。主要アトラクションではご案内できる人数を開業時の約1.2~1.7倍へと拡大しています。そしてもう一つは、午後入場チケットの導入や整理券のアプリ抽選制への刷新がもたらした「来場ピークの平準化(分散)」です。

これまでの課題から逃げることなく、現場力とシステムの仕組みを磨き上げてきた蓄積が、混雑の中でもゆとりある滞在を提供できるパークへの進化を可能にしました。

■アトラクションへのご案内人数の拡大

スタッフの習熟や、運営方法の見直しなどの積み重ねにより、アトラクションへより多くの皆様をご案内できるようになりました。



ダイナソー サファリなどの
大規模アトラクション
約**1.2-1.7倍**

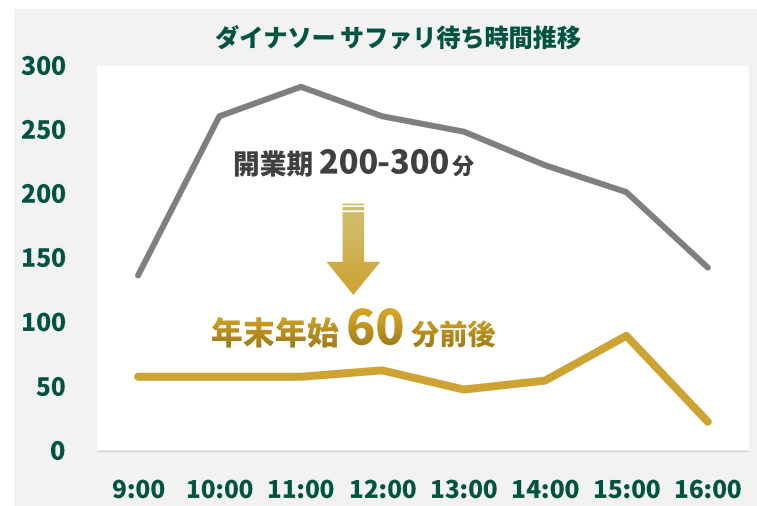


タイタンズ スウィングなどの
エクストリームアトラクション
軒並み約**2倍以上**

※本資料における、集客や待ち時間の比較は、開業第1~2週(2025年7月25日~8月7日)と年末年始(2025年12月28日~2026年1月3日)の結果に基づいています。

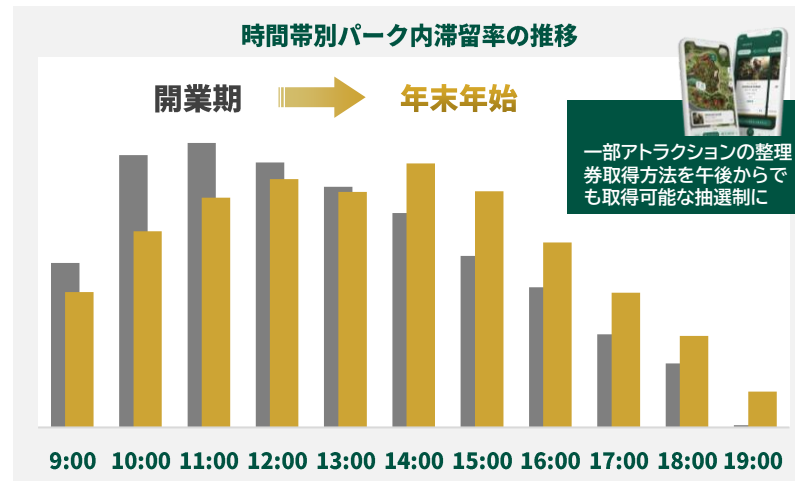
■待ち時間の大幅な短縮

開業期と同規模の来場者をお迎えしながら、アトラクションの待ち時間も大幅に減少。繁忙期においても快適にお楽しみいただけるようになりました。



■来場集中の解消により、ゆとりのある滞在が可能に

極端な混雑の主な要因となっていた「朝一番への集中」を避けるため「午後入場チケット」や一部アトラクションの「整理券アプリ抽選制度」を導入。来場ピークが午前から午後へと分散され、全体での待ち時間や混雑の解消が進みました。



一部アトラクションの整理券取得方法を午後からでも取得可能な抽選制に

より良い体験をお届けするために。



2026年4月29日

新大型アトラクション「やんばるトルネード」誕生。

最大高度約20mに達する本アトラクションは、溪谷の起伏ある地形をそのまま高低差として活かした、やんばるの大自然に溶け込む設計が特徴です。回転しながら空へと駆け上がり、最高到達点では体が完全に逆さまになる、沖縄唯一の絶叫スリルと圧倒的な爽快感を味わえます。

一度に最大48名が同時乗車できる高い効率性を備えており、パーク全体でお迎えできる人数の拡大とゲストの分散を強力に牽引。他アトラクションの待ち時間軽減にも寄与し、繁忙期でもより多くのゲストへ快適で心地よいパーク体験をお届けする、運営進化の大きな転換点となります。



「自分がやらなければ」1人の熱意が波及した インバウンド体験の劇的進化

世界自然遺産「やんばる」への注目が国内外で高まるなか、ジャングリア沖縄にも連日多くの海外ゲストが足を運んでくださっています。しかし開業当初は、言語の壁やパーク特有の能動的な楽しみ方が十分に伝わりきらず、海外の旅行予約サイトなどで厳しいお声をいただく苦しい日々がありました。この状況に誰よりも悔しさを滲ませ、「せっかく沖縄を選んでくれたゲストを、必ず笑顔にして帰りたい」と現場の最前線で自発的に立ち上がったのが、台湾出身の社員を中心にまとまった海外出身のナビゲーターチームでした。

彼らの国境を越えた強い熱意が原動力となり、現場では矢継ぎ早に具体的な改善アクションが実行されていきました。まずソフト面では、スタッフの対応言語を一目で認識できる「言語バッジ」を導入するとともに、多国籍スタッフによる各エリアの巡回体制を大幅に強化。母国語で気軽に頼れる、心理的な「見える安心」を構築しました。さらに、「海外ゲスト専用入口」を新たに開設。入園直後の最も不安な入場のタイミングで、ジャングリアならではの能動的な冒険の進め方を一人ひとりに寄り添って丁寧に案内するコンシェルジュのような体制を整えました。

ハード面においても、人気アトラクション「ダイナソー サファリ」の車内へ多言語同時翻訳システムをいち早く導入するなど、シームレスに体験へ没頭できる環境づくりを進めています。地道な工夫の積み重ねが実を結び、海外サイトにおける口コミ評価は当初の2点台から4点台へと劇的な回復がみられています。国籍を問わずすべての方にお楽しみいただける環境のため、努力を続けてまいります。



風が吹き上げる高台で、空へのバトンを繋ぐ。 「気球体験」運航率アップのための挑戦

生命力あふれる濃緑の森から、高度を増すごとに現れるエメラルドグリーンの海。360°の大自然パノラマのなかを浮遊する「ホライゾン バルーン」は、ジャングリア沖縄が誇る贅沢体験の象徴です。しかし、開業当初は気候以外の不具合なども重なったことで運休が続き、「ほとんど飛ばないアトラクション」なのではないかという印象が定着してしまっていました。

実際に、パークが位置する嵐山は本部半島の中央部にある高台のため、海からの風が吹き抜けやすく、風が吹き上げる通り道という、気球の飛行としては非常に「攻めた場所」にあります。ですが、その環境のなかでも、最高の体験を届けようとする職人たちはチャレンジを続けてきました。前日の詳細な天気予測から始まり、パイロット、テクニカル担当、ゲストへのご案内担当といった様々な領域のメンバーが、日々フライトに向けた連携と、安全のための精緻な判断を続けています。

地道な運営方法の改善と飛行判断の精度検証を重ねた結果、現在ではこの厳しい環境下でも4割超の確率でフライトができるまでになりました。多くの方に空からの絶景をお届けできる日が増えているだけでなく、どうしても飛行ができない日にも、気球に間近まで近づいていただけるゴンドラツアーも開始しています。

データと経験の蓄積により、飛行予測の精度を今後さらに高めていきます。奇跡の絶景を、より多くの方に安心のクオリティでお届けするため、私たちの空への挑戦はこれからも止まりません。



ここにしかない景色を、最高の思い出に。 パークをめぐる、フォトラリー

華やかなショーや興奮に満ちたアトラクションの合間、パークの美しいロケーションを背景にカメラやスマートフォンを構えるゲストの姿が一段と増えています。

2026年4月より試験的に導入した「フォトラリー」は、そんな何気ない滞在時間を、宝探しのようなワクワク感あふれるアクティビティへ変えたいという想いから開始した取り組みです。パーク内の指定されたフォトスポットで最高の思い出写真を撮影し、その画面をナビゲーターに見せることで、ここでしか手に入らない全6種類のオリジナルステッカーをプレゼントしています。

ミッションは多岐にわたり、たとえば大自然を浮遊する「ホライゾン バルーン」をバックにした笑顔の1枚。ほかにも「パノラマ ダイニング」での贅沢なリゾートタイムなど、パークの多様な魅力に焦点を当てています。激しい乗り物が苦手な方や小さなお子様でも、自分の足で歩きながら、ゲーム感覚で自由に楽しみ、パーク全体の自然な回遊性も高めています。お渡し口では、画面を確認するナビゲーターとゲストとの間で「素敵なお写真ですね！」「次はあちらのスポットがおすすめですよ」といった温かい対話が次々と生まれました。

旅の記憶を形に残す喜びと、人と人との触れ合い。ゆとりある豊かな滞在環境を支える大切な取り組みとして、まず期間限定施策として実施しましたが、今後も様々な形でパーク滞在を豊かにする体験を増やしてまいります。

夏こそ、最高の体験を。

昨夏の厳しい暑さと真摯に向き合い、ゲストの皆様がより安心・快適に過ごせるパークへと変革していくこと。その強い決意は、設備投資による日陰の大幅な拡充や、冷却設備の配備という具体的な形となって現れています。さらに、花王「ビオレ」をはじめとする14社のパートナー企業と共に、ハード・ソフトの両面から今までにない快適な滞在環境を共創。

暑い夏でも最高のエンターテインメントを、そして心から昂る「パワーバカンス」をお届けするための、私たちの新たな進化についてお伝えします。

Bioré × JUNGLIA OKINAWA



夏のパークをもっと快適に。 花王「ビオレ」との強力なタッグが実現

「沖縄の夏を、誰もが全力で楽しめるものになりたい」。私たちが掲げるこの想いに、日本を代表するブランドである花王「ビオレ」が賛同し、力強いサポートの手を差し伸べてくださいました。パークのさらなる進化に向けて、自社だけでなく伴走して下さるパートナーがいることは、私たちにとって非常に大きな後押しです。日差しが強い沖縄の夏を楽しんでもらえる環境にするために、ビオレが長年培ってきた知見を活かし、具体的な施策が続々とスタートしています。

冷房完備の休憩スペースは「クイック リフレッシュ ステーション」として一新し、冷房機能をさらに強化。ほてった肌の温度を瞬時に下げる「冷ハンディミスト」の体験スポットを新設したほか、強い日差しを遮る「無料レンタル日傘」も5,000本規模へと拡充しました。さらに、パークで働くナビゲーターにも日焼け止めなどの提供で支えていただいています。

花王株式会社スキンケア事業部

「ビオレと一緒に沖縄の夏を支えたいという想いで、様々な企画を準備いたしました。ゲストの皆様、パークで働くナビゲーターのみならず、少しでも肌ストレスのない快適な環境で過ごせるようサポートしていきたいと思っております。」

強力なパートナーの力強い言葉とともに「肌ストレスのない快適な環境」を整えることで、ゲストの皆様には純粋に大自然での熱狂に没頭していただきたい。ジャングリア沖縄の暑さ対策は、次なる次元へと進化しています。



数億円規模の設備投資を実行。 日陰スペースと大型ミストファンを大幅増設

昨年、初めての夏をゲストの皆様と共に過ごす中で、私たちは沖縄の強い日差しや暑さの厳しさを改めて深く肌で感じました。

あの日、現場でいただいたお声や実体験を重く受け止め、より快適なパーク体験を確実に届けたい。その強い決意から、今夏に向けて数億円規模の追加設備投資を断行いたしました。今回の強化における最大の柱は、物理的な「日陰」の拡充です。

ショーを行うブリーズアリーナのステージ付近への、団体ゲストも一緒に休憩をとることができる屋根付きの休憩エリア(約260名収容)の新設や、レストラン「ワイルドバンケット」への大型シェード座席(約140名収容)設置などを進めるほか、パーク全体でのパラソル&ベンチも昨夏比で約40%増設しました。無料のレンタル日傘での日差し対策とともに、できるだけ夏の沖縄の日差しを避けてお過ごしいただける場所を拡充してまいります。また、約30メートル先まで冷風とミストを届ける大型ミストファンを待ち列や休憩スペースなど主要エリアに新規導入し、広範囲にわたる冷却環境を整備します。

「もっと快適に、もっと長く遊び尽くしていただきたい」。昨夏の経験を確かな進化へと繋げ、私たちはこれからも、ゲストに寄り添った環境づくりへの投資を続けてまいります。



14社と連携し、夏の体験を最高の環境に。 「JUNGLIAクーリングパートナー」始動

「沖縄だからこそ味わえる夏を、最高の体験にしたい」。私たちがパートナー各社と共有する、一つの強い思いです。年々厳しさを増す暑さの中で、ゲストの皆様
の安全を守り、快適に楽しんでいただける環境を整えることは、パークにおける
最優先事項です。その実現に向け、この思いに深く共感いただいた業種の異なる
14社との新たな連携枠組み「JUNGLIAクーリングパートナー2026」が始動い
たしました。

本プログラムでは、各社と協力し多角的な取り組みを進めます。大型ミストファンによる待機列や休憩スペースの冷却をはじめ、暑さ対策に役立つ商品のゲスト
へのご提供などを予定しています。さらに、ゲストの皆様の体験だけでなく、パークを最前線で支えるナビゲーター(従業員)の労働環境の向上にも力を注ぎます。
パートナー企業の皆様との強力な共創を通じて、ゲストと働く仲間たちを全力で
支え、安全で快適な沖縄の夏をお届けする努力を惜しみません。

【JUNGLIAクーリングパートナー2026参画企業 ※2026年5月末現在】

株式会社アイ工務店、株式会社INFORICH、オリオンビール株式会社、株式会社
オンザページ、沖縄コカ・コーラボトリング株式会社、沖縄セルラー電話株式会社、
株式会社かんぼ生命保険、佐川急便株式会社、株式会社JTB、Bioré(ビオレ)、
株式会社ファミリーマート / 株式会社沖縄ファミリーマート、株式会社Maxfield、
三井住友海上火災保険株式会社、株式会社琉球銀行



暑さを最高のエンターテイメントへ。 びしょ濡れ体験を続々と投入

ジャングリア沖縄が目指すのは、単に暑さをしのぐことではありません。一
足早く4月からスタートし、すでに連日大熱狂を生み出しているのが「クールダウ
ン ウォーター パーティー」です。アップテンポな音楽とともに大量の水が降り注
ぎ、大人も子供も理屈抜きで全身びしょ濡れになってはしゃぐ、最高の笑顔と涼
しさが弾ける空間となっています。さらに、昨年ご好評いただいた「ジャングリア
スプラッシュ フェス」も、今年はスケールを拡大してパワーアップ。沖縄の眩しい
太陽を味方につけ、暑ささえも笑って楽しめる体験へと変えていきます。徹底し
た「守り」の暑さ対策という安心感があるからこそ、心を開放して思い切り遊べる
「攻め」の夏体験です。

私たちは本格的な夏に向け、涼しくなれる新たなウォーター エンターテイン
メントをさらに続々と投入していく計画です。圧倒的な楽しさで暑さを吹き飛ばす、こ
れからのジャングリアにご期待ください。

ジャングリア沖縄 2026年の暑さ対策 まとめ

【日陰スペースの確保】

- 冷房完備スペースの冷房機能強化
- 大型屋根付きスペースの新設
- パラソル付ベンチを昨夏比約40%増設



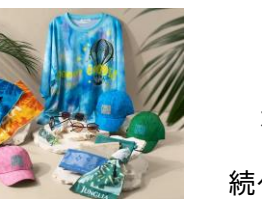
【ゲストの快適なパーク体験のご提供】

- 給水スポットの設置
- 待ち列などへ大型ミストファンの大幅増設
- ドリンクおよび暑さ対策グッズの自販機設置
- 無料レンタル日傘を5,000本拡充



【暑さを楽しむ、パーク体験の増強】

- びしょ濡れエンターテイメント体験の大幅強化
- 冷たいフードメニュー、冷感グッズのラインアップ



本格的な夏時期に向けて
さらに追加の暑さ対策を
続々と発表してまいります。

地域とともに歩む。

沖縄の地域社会の良き一員として、共に未来を描いていくこと。想いは近隣ホテルや地域施設との連携による成果、次世代を育む「おきなわ未来づくりプログラム」の活動、そして県内各地で県民の皆様と本音で向き合うイベントなどへ広がっています。

パーク単体での活動にとどまらず、地域全体でお客様を迎え、沖縄北部の活性化に貢献していく。皆様から寄せられた「声」を新たな原動力に変え、点から面へと広がり、確かな変化の兆しが見え始めた、地域との共創と新たな循環の取り組みについてお伝えします。



国営沖縄記念公園(海洋博公園)・沖縄美ら海水族館

やんばるを巡る旅を、よりスムーズに。 沖縄美ら海水族館との周遊チケットを発売

沖縄北部の魅力をより深く、快適に体感していただくための地域連携が加速しています。その一環として、2026年3月30日より、沖縄美ら海水族館とジャングリア沖縄が連携した「沖縄北部周遊セットチケット」の販売を開始いたしました。

車で約30分の距離にある「海」と「森」の二つの魅力を一日で満喫できるよう、本チケットには特別な特典を付帯させています。沖縄美ら海水族館の入館に加え、ジャングリア沖縄での「優先レーン入場」や海洋博公園内の遊覧車1日無料券をセットにすることで、移動や待ち時間のストレスを軽減し、質の高い周遊体験をご提供します。この取り組みは、私たちが理事として参画する「沖縄やんばるDMO」が掲げる、地域一体となった観光課題の解決と回遊性向上を目指す活動のひとつです。

現在、沖縄美ら海水族館だけでなく、周辺の多くの観光施設とも連携を深めており、専用のポータルサイトを通じて北部全体の魅力を発信しています。地域の皆様と共に、北部エリアを一つの大きな目的地として磨き上げ、滞在時間の延長と地域経済への貢献を推進してまいります。

沖縄北部満喫ポータルサイト
<https://okinawa-hokubu.org/>



「宿泊」が変える北部の未来。 冬期の変化や、加速する近隣ホテルの開業

沖縄北部の観光における長年の命題は、冬の閑散期の克服と「宿泊」への転換でした。ジャングリア沖縄の誕生により、この状況がいよいよ動き始めています。パートナーホテル各社からは、夏期だけでなく、従来はアクティビティが減少する冬期においても前年比を上回る稼働を記録しているとの報告をいただいています。ジャングリアが起点となり、季節を問わず「北部に泊まる理由」を生み出している確かな兆しです。

一方で、北部には「高価格帯のリゾート」が「宿泊特化型のシンプルビジネスホテル」という、旅の用途にフィットしにくい二極化が以前からあり、これが旅で泊まる方を受け止めきれない周遊のボトルネックであることは周知の事実でした。まだ現時点では恩納村や那覇に宿泊するスタイルが主流ですが、ジャングリア開業以降、名護・今帰仁・本部の周辺3エリアを中心に宿泊施設の開業や建設が続いており、この流れに変化が起き始めています。

ファミリー向けの中規模ホテルから個性豊かなヴィラまで、ここからの数年で多様な受け皿が整いつつあるなかで、北部観光は大きな転換点を迎えます。地域一丸となってキャパシティを拡充し、集客を地域全体の経済波及効果へと繋げていく。長期的な視点にたち、地域と一緒に変化を生み出していきます。



地元の誇りを、世界の舞台へ。 広がる「おきなわ未来づくり基金」の支援

「おきなわ未来づくりプログラム」は、ジャングリア沖縄と県内外のパートナー企業約20社が手を取り合い、沖縄が抱える社会・観光課題の解決を共に目指す共創の枠組みです。このプログラムを通じて設立された「おきなわ未来づくり基金」は、単なる寄付にとどまらず、地域の未来を担う子どもたちの夢を具体的に後押しする活動を続けています。その象徴的な事例として、地元・今帰仁村で30年以上にわたり活動を続ける創作エイサー団体「今帰仁子供太鼓いまじん」のアメリカ遠征を支援いたしました。

「今帰仁子供太鼓いまじん」の皆さんは、2026年7月、ワシントンで開催されるアメリカ建国250周年の祝賀パレードという大舞台で演舞を披露します。20名の派遣費用の一部として基金より50万円を贈呈した際、子どもたちは「行けなかった仲間の思いも背負って、世界にエイサーの素晴らしさを届けたい」と、力強く抱負を語ってくれました。ジャパンエンターテイメントからも「日々の練習の成果を出し切り、大成功させてほしい」と、世界へ羽ばたく背中を激励しました。

地域と企業が一体となって課題に向き合い、子どもたちが広い世界へと挑戦できる環境を整えること。それこそが、私たちがこの地で共に歩む理由です。ジャングリアはこれからも、地域の皆様の誇りに寄り添い、共に新しい未来を切り拓いてまいります。



3,000通の「本音」に、真正面から向き合う。 対話から始まるジャングリアの新たな変革

ジャングリア沖縄を、もっと身近に。その想いから私たちはパークを飛び出し、県内各地の商業施設を巡る「もっと近くに！プロジェクト」を実施しました。会場ではダンスショーやバギー体験に加え、メッセージをいただいた方が参加できる巨大ガラガラ抽選会を開催。わずか数日間のイベントでしたが、私たちの予想を遥かに上回る3,000通もの熱いメッセージが寄せられました。

寄せられた声には、「沖縄のために、絶対に成功してほしい！」「次は家族みんなで遊びに行くね！」といった温かい応援が溢れていました。一方で、直接向き合ったからこそ伺えた「忖度のない率直な本音」や、今の私たちに足りないものへの鋭い指摘も広くお受けすることとしました。ジャパンエンターテイメントCEO加藤や副社長の佐藤をはじめとする経営陣自らが現場に立ち、皆様から手渡されたメッセージを一枚一枚読み、対話を重ねました。本音で向き合い、対話を厭わない経営陣の姿に、県民の皆様からも「ジャングリアが変わった」と驚きの声をいただく場面もありました。

この活動はゴールではなく、対話を積み重ねていくための大切な「通過点」に過ぎません。今後もこの活動を継続していきます。向き合い、対話することを何より大切に。寄せられた3,000の「声」を確かなエネルギーに変えて、私たちは地域に愛され、信頼される場所へと進化し続けるための挑戦をこれからも全力で続けてまいります。



森の「秘密」に触れ、やんばるを深く知る。 植物から再発見する「ネイチャーガイド」

ジャングリア沖縄の魅力は、スリル満点のアトラクションだけではなくありません。私たちは、世界に誇る「やんばる」の豊かな森そのものを一つの大きな「物語」と捉え、地域の自然環境を学びながら楽しむ新しい散策スタイルを提案する「ネイチャーガイド」を新たに制作、配布開始しました。

このガイドでは、ジャングリア沖縄で目にする事ができる、沖縄を象徴するガジュマルやデイゴなど15種類の植物、そしてヤンバルクイナやオオゴマダラといった、この地に息づく貴重な生きものたちの生態を詳しく紹介しています。単に景色を見るだけでなく、樹齢100年級の巨木481本を一時避難させてから再び一本ずつ丁寧に戻した「森まるごとのお引っ越し」のエピソードなど、私たちが森を守るために尽くした緻密な森づくりの裏側も知ることができます。

この取り組みは、アトラクションをアクティブに楽しむ層はもちろん、ゆっくりと森の息吹を感じながら散策を楽しみたいシニア世代や、お子様と一緒に動植物の尊さを学びたいご家族にとっても、ジャングリアの新しい、そして深い楽しみ方の扉となります。地域の自然を「見て、触れて、驚く」体験を通じて、あらゆる世代の方々にやんばるの真の価値をお届けする入口になりたいと考えています。



北部観光の“エンジン”が一つに。 やんばるDMOと共に描く、持続可能な未来

2026年3月5日、沖縄県北部12市町村をはじめ、観光協会や地元事業者、大学などが一体となり、地域全体の観光戦略を担う基幹組織「一般社団法人 沖縄やんばるDMO」が設立されました。ジャングリア沖縄を運営するジャパンエンターテイメントからも副社長が理事として参画しており、設立時より主要な民間パートナーとして、北部観光を「点」から「面」へと広げる強力な推進役を担っています。

本組織は、北部地域全体で持続可能な観光経営を実現するための「地域の司令塔」です。ジャングリア沖縄の誕生により国内外から注目が高まる中、増大する観光需要を確実に地域経済の循環へと繋げるため、データに基づく戦略策定や広域での周遊促進策を官民一体で進めています。

私たちの役割は、単なる一施設にとどまりません。パークに集まる膨大な観光データを地域に共有し、地域の所得や幸福度の向上に貢献する「エンジン」となることです。さらに、地域と共創する高度観光人材の育成など、次世代の観光基盤づくりにも深くコミットしています。

住民と訪問者の双方が幸せを分かち合える、豊かな未来へ。やんばるDMOとの強固な連携を通じて、私たちは沖縄北部の価値を世界基準へと高め、地域全体の持続的な飛躍を牽引してまいります。



共に汗を流し、笑顔分かち合う。 暮らしと祭りに溶け込むジャングリアの輪

ジャングリア沖縄は、沖縄北部のコミュニティに深く根ざしたパークとして、地域の皆様と同じ目線で歩むことを大切にしています。私たちは単なる一施設ではなく、地域社会の一員として「共に汗を流し、支え合う」活動の一つひとつ積み重ねています。

その象徴的な活動が、地域に愛され続ける「名護さくら祭り」への参加です。パレードにはパークのエンターテイナーたちが全力のパフォーマンスで出演。沿道の皆様と手を取り合い、一体となって祭りを盛り上げることで、パークの外でも確かな絆を築くことができました。こうした地域の賑わいの中心に飛び込み、共に楽しむ姿勢こそが、私たちの目指す姿です。

また、日々の暮らしの「困りごと」にも真摯に向き合っています。呉我山区では、人手不足に悩む高齢の農家さんのもとへ駆けつけ、タンカンの収穫ボランティアを実施しました。さらに、地域住民の皆様の大切な生活基盤である地下水パイプ周辺の環境整備(草刈り・清掃)にも協力。住民の方々と一緒に汗を流す時間は、私たちにとってもかけがえのない財産となっています。

「困ったときはお互い様」の精神を胸に、私たちはこれからも地域に深く入り込み、皆様と共にこの地の豊かな未来を創り続けてまいります。



「ふるさと納税」を通じて地域へ還元。 数千件の寄付を生む今帰仁村との強力な連携

私たちは拠点をおく地域への貢献を何よりも大切に考えています。その想いを具体的な形にするため、昨年より今帰仁村の「ふるさと納税」の返礼品として、パークの入場チケットを提供しています。この取り組みは、「ジャングリアをきっかけに、今帰仁村そのものを応援していただきたい」という強い願いから実現しました。導入以来、全国から予想を遥かに上回る反響をいただき、現在までに数千件のにぼる寄付が寄せられています。

これにより、パークの賑わいが地域の貴重な財源へと直接還元される、持続可能な地域貢献の仕組みが回り始めています。特産品だけでなく、実際に足を運んで体感いただく、地域の魅力が伝わる新しい形を届けていきます。

返礼品には、パーク入場券だけでなく、心身を癒やすスパとのセットも追加し、多様なニーズに応える工夫を重ねています。私たちはこれからもジャングリア単体での成長に留まらず、ふるさと納税をはじめとする様々な地域連携を通じて、今帰仁村、そして沖縄北部の豊かな未来を共に創り上げてまいります。

沖縄の未来を担う 「人」と共に。

パークでの最高の体験は、素晴らしい「人」の力によって生まれます。約1,300名のメンバーが紡ぐ温かなホスピタリティはそのままに、現場変革を力強く牽引する新卒1期生の頼もしい成長と、その高い志に共感して仲間に加わった2期生の合流により、私たちの組織はさらなる進化を続けています。

また、大学との確かなインターンシップ成果を土台に、さらに県内外の大学との新たな包括連携協定の締結も大きく進展。沖縄の地で誰もが誇りを持って働き、高度観光人材としての成長のバトンが次世代へとつながっていく、確かな歩みの様子をご紹介します。



次世代の観光リーダーを沖縄から。 産学連携による高度人材育成のさらなる拡大

ジャングリア沖縄が掲げる「高度観光人材の育成」は、これまでのPROGRESS REPORTで示していた構想を経て、今、確かな「成果」へと結実しています。

2025年度のインターンシップでは、地元・沖縄北部の名桜大学から11名(8カ月間)、立命館アジア太平洋大学(APU)から12名(3カ月間)を受け入れ、実務を通じた質の高い学びの場を提供。学生たちが現場の最前線で変化を起こす主体として活躍する、産学連携モデルを開始しました。この流れをさらに加速させるべく、2026年3月には新たに沖縄キリスト教学院大学(3月12日発表)および沖縄国際大学(3月30日発表)と包括連携協定を締結しました。これにより、地元沖縄の知を育むネットワークがより強固なものとなっています。

さらに、県外においても新たに東海大学との連携が本格始動(5月19日発表)。全国から意欲ある若者が集い、沖縄の地で未来の観光を構想するエコシステムが広がり続けています。

「理論と実践を繋ぎ、沖縄の価値を世界基準へと高める」。私たちはこれからも、志を同じくする大学パートナーと共に、次世代を担うリーダーたちの挑戦を全力で支え、沖縄観光の未来を拓く人材を輩出し続けます。



「志」は次なる世代へ。 新卒1期生の成長と、夢を共にする2期生

2026年春、ジャングリア沖縄に新たな希望が加わりました。「沖縄北部から世界を動かすエンターテインメントを届けたい」という志に共感した、6名の新卒2期生です。若い情熱を持った彼らがこの地に集ってくれたことは、私たちにとって大きな喜びであり、誇りでもあります。

そして今、この組織の真の「柱」として躍動しているのが、昨年入社した新卒1期生たちです。彼らは開業直後の混乱や、時にはゲストからの厳しいお声、周囲からの心配な思いといった荒波を、最前線で肌を受け止めてきました。しかし、誰一人として欠けることなくこの一年を駆け抜け、共に壁を乗り越えてきた彼らの絆は、今やこの会社の何よりの強みとなっています。特に、この年末から現在にかけての「待ち時間短縮」や「運営オペレーションの抜本的改善」といった重要課題において、1期生の存在は不可欠なものでした。

現場のリーダーとしてゲストに向き合う者、バックオフィスで企画の側から組織の横串を通す者。彼らの奮闘なくして、今のジャングリアの進化は成り立ちません。たくましく成長し、誇りを持って後輩を迎え入れた1期生。そしてその背中を追い、新たな風を吹き込む2期生。二つの世代が手を取り合い、ジャングリアをより良い方向へ導いていく、その確かな歩みにどうぞご期待ください。

皆さまの笑顔が、私たちの明日を動かす最高の原動力です。
まだまだ試行錯誤の連続ですが、いただいた温かい応援を胸に、1周年に向けてさらに愛されるパークへと歩みを進めます。心からの感謝を込めて。





株式会社ジャパンエンターテイメント

2026年5月28日